

アメリカ英語における関係代名詞の用法について

三 原 京

1. 序

現代英語で関係代名詞に分類されているものに, who, which, whom, whose, that がある。これらのどれが使用されるかは, 文中の先行詞と格によって決定される。つまり, 先行詞が人で主格なら who か that, 目的格なら whom か that か who, 先行詞が物で主格か目的格なら which か that, 所有格なら先行詞が人でも物でも whose が用いられるとされている。

しかし実際に使われている英語は, 必ずしもそのような英文法の規則に則っているとは限らない。そこで本論では, アメリカの代表的な日刊新聞 *The New York Times* の Editorials/Op-Ed および *Harry Potter* のアメリカ版に使用された関係代名詞を調べ, 現代アメリカ英語における関係代名詞の用法を分析してみたい。以下, 第2節で日本の学校文法における関係代名詞の説明を概観する。第3節で *The New York Times* について分析し, 第4節で *Harry Potter* を分析する。第5節は結語である。

2. 学校文法における関係代名詞

一般に学校文法¹⁾では, 関係代名詞を次のように分類している。

	主格	所有格	目的格
人	who / that	whose	whom / that / who
物	which / that	whose / of which	which / that

これらの関係代名詞のうち, 目的格のもののみ省略可能²⁾とされ, 特に口語では省略されるのが一般的とされる。また, 関係代名詞には制限用法と非制限用法があるが, that には制限用法しかない。さらに, 他の関係代名詞には「前置詞 + 関係代名詞」という形が可能であるが, that にはその形が存在しない。しかし that は, 先行詞が人であっても物であっても, また, 主格としても目的格としても用いられる。特に that が好んで用いられるのは, 先行詞に形容詞の最上

級 (the -est, the most...), 序数 (the first, the second, the last, etc.), the only, the same, the very, all, any, every, no などが含まれる場合, 先行詞が「人+物」の場合, 先行詞が疑問詞である場合である。また, どういう関係代名詞であれ, 先行詞が固有名詞の場合は, 基本的に非制限用法でしか用いられない。制限用法は先行詞を後置修飾して限定する用法であるため, すでに限定されている固有名詞が先行詞の場合は, 同じ名前の人 [物] が複数存在するなどの特殊な場合を除き, 不自然だからである。

- (1) a. Jane has two children {who / that} go to college.
 b. The Potomac is the river {which / that} flows through Washington D.C.
 c. Do you know someone whose father is a doctor?
 d. Would you hand me that book {whose cover / the cover of which} is blue?
 e. Margaret Thatcher is a woman {whom / that / who / -} I respect.
 f. This is the dog {which / that / -} I saw in the park yesterday.
- (2) a. John sold the violin, {which / *that} his ex-wife gave him five years ago.
 b. I have never been to the house in {which / *that} my grandparents used to live.
- (3) a. James is the only student that passed the exam.
 b. Look at the man and his dog that are walking across the bridge.
 c. Who that is under five would do such a thing?
- (4) a. Tomorrow I'll introduce you to Paul Johnson, who is one of my colleagues.
 b. I hear there are quite a few Tanakas in your company. Yesterday I met the Tanaka who is 190cm tall. Do you know him?

しかし, 以上の説明については, 若干の問題点がある。まず, Leech (1989), 石川 (2000) で指摘されているように, which という関係代名詞は that ほどメジャーなものではなくなっているのではないかという点である³⁾。

- (5) We use *that* commonly instead of *which* especially in < speech > . But *which* is used in non-defining clauses. —Leech (1989)
- (6) … 現代英語において, 制限節中で物を受ける関係代名詞は, その9割以上が *that* である …。 —石川 (2000)

次に, 先行詞に the only, all などがつく, いわゆる *that* が好んで使われるとされる場合でも, 人が先行詞の場合は *that* が使われないことが多いのではないかという点である⁴⁾。『旺文社レクス英和辞典』によれば, (7a) における *that* の使用率は31%, *who* は77%, (7b) の *that* 使用率

は 36%, who は76%だという。「人が先行詞なのだから who」という回答が多かったということである。

(7) a. John is the only student {that / who} can solve the problem.

b. All the prisoners {that / who} tried to escape were punished.

また、文法書に明白に記載されているわけではないが、石田 (2002), 坂井 (2003) が指摘しているように、日本人英語学習者の中には、「関係代名詞が制限用法の場合、先行詞になる名詞は後続の関係詞節によって限定されるので、不定冠詞 a/an ではなく定冠詞 the をつけなければならない」と思い込んでいる人が結構いる。しかし実際には、ニュアンスの違いはあるものの、先行詞には不定冠詞も定冠詞も用いられる⁵⁾。

(8) a. This is a hat {which / that / -} I bought last week.

b. This is the hat {which / that / -} I bought last week.

そこで本論では、これらの問題点を踏まえ、物を受ける関係代名詞、人を受ける関係代名詞の制限用法と非制限用法を調べ、分析を行いたい。

3. *The New York Times* の調査結果

前節で見たように、関係代名詞の用法については、先行詞がどのようなものか、制限用法か非制限用法か、関係代名詞が前置詞を伴っているか、といったことが問題になりやすい。本論では、以上のようなことに注目し、*The New York Times* の2003年6月から8月までの3ヶ月間における Editorials/Op-Ed をデータとして用い、検索を行った。以下では、大きく3つの項目に分けて検索結果を分析していく。第一に、物が先行詞で関係代名詞が前置詞を伴わない場合、第二に、人が先行詞で関係代名詞が前置詞を伴わない場合、第三に関係代名詞が前置詞を伴う場合を見る。

3. 1. 物を先行詞とする前置詞を伴わない関係代名詞

まず、関係代名詞が物を先行詞とし、前置詞を伴わない場合について、6つのカテゴリーに分けて見ていく。第一に、(9)の例に見られるような、先行詞が「不定冠詞+物」の場合について集計してみた。ここでは不定冠詞を拡大解釈して、「one + 物」も含めてある。

(9) a. The city is struggling with a desperate budget crisis that has forced taxes to the breaking point. (June 21, 2003)

b. In a recent interview with *Le Figaro*, Mr. Bush also adopted a less bullying tone.

which we hope he maintains (June 1, 2003)

- c. It seems almost unbelievable that an electrical grid whose reliability had supposedly been bolstered after severe blackouts in 1965 and 1977 nevertheless failed in a matter of seconds on Thursday (August 16, 2003)

結果は表1の通り、制限用法の場合は主格、目的格ともすべて that, 非制限用法の場合は主格、目的格ともすべて which であった。また所有格 whose は、制限用法が1例のみ検索された。

表1 先行詞が「不定冠詞+物」の場合

that (主格)		which (主格)		whose		that (目的格)		which (目的格)	
制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	非制限	非制限
74	0	0	3	1	0	4	0	0	3

第二に、(10)のような、先行詞が「定冠詞+物」の場合を見てみた。ここでは定冠詞を拡大解釈して「that/those +物」, 「this/these +物」も含めてある。

- (10) a. The international controls that contained the spread of nuclear weapons for decades are crumbling. (July 27, 2003)
- b. The benefits, which would not kick in until 2006, are relatively generous for low-income patients (June 16, 2003)
- c. Only public groups can control the use of these drugs, whose shape, color and packaging must be distinguishable from those sold for profit in other markets. (August 29, 2003)

結果は、先行詞が「不定冠詞+物」の場合と同じで、主格、目的格とも、制限用法はすべて that, 非制限用法はすべて which であった。所有格 whose は、非制限用法が1例のみ検索された。また用例の数については、非制限用法の主格 which の場合は定冠詞を伴う場合の方が圧倒的に多いが、その他の場合は大きな差はないと言える。

表2 先行詞が「定冠詞+物」の場合

that (主格)		which (主格)		whose		that (目的格)		which (目的格)	
制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	非制限	非制限
72	0	0	20	0	1	10	0	0	2

第三に、あまり例は多くないが、(11)のように先行詞が「所有格+物」の場合を見てみる。

- (11) a. ... Washington should concentrate on improving its precision-guided bombs and missiles that carry conventional warheads. (June 2, 2003)

- b. Mr. Libeskind's original plan, which was executed rapidly for a competition, was inevitably going to be changed (July 14, 2003)
- c. That includes Koumbia's little schoolhouse, whose third classroom remains unfinished. (August 5, 2003)

ここでは目的格は検索されなかったが、基本的な結果は同じで、制限用法は that のみ、非制限用法は which のみであった。所有格の whose は、ここでも 1 例検索された。

表 3 先行詞が「所有格+物」の場合

that (主格)		which (主格)		whose		that (目的格)		which (目的格)	
制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	非制限	非制限
1	0	0	2	0	1	0	0	0	0

第四に、先行詞が「無冠詞+物 (単数名詞)」の場合、つまり、(12)のように、先行詞が数えられない名詞である場合を見てみる。

- (12) a. ... and it is possible he could provide evidence that could assist Mr. Moussaoui in his defense. (July 28, 2003)
- b. Nor can it consider military action, which could ignite a new war on the Korean peninsula (July 18, 2003)

ここでも目的格は検索されなかったが、主格の用法についての結果は同じで、制限用法はすべて that、非制限用法はすべて which であった。

表 4 先行詞が「無冠詞+物 (単数名詞)」の場合

that (主格)		which (主格)		whose		that (目的格)		which (目的格)	
制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	非制限	非制限
14	0	0	3	0	0	0	0	0	0

第五に、先行詞が「無冠詞+物 (複数名詞)」の場合を見てみる。

- (13) a. Countries that do not agree to both changes should be cut off from all civilian nuclear cooperation (July 27, 2003)
- b. It's also hard for farm states, which think of federal aid simply as a way to help hard-working local farmers (August 5, 2003)
- c. ... lawsuits against older power plants whose largely unregulated emissions contribute significantly to air pollution in the Northeast. (August 13, 2003)

結果は同じで、制限用法は主格、目的格ともすべて that、非制限用法はすべて which であった。

表5 先行詞が「無冠詞+物(複数名詞)」の場合

that (主格)		which (主格)		whose		that (目的格)		which (目的格)	
制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	非制限	非制限
55	0	0	6	4	0	5	0	0	0

第六に、先行詞が「物(固有名詞)」の場合を見てみる。

- (4) a. Moscow, which is helping Iran build a civilian power reactor, must make clear that it will end all nuclear cooperation (June 22, 2003)
- b. ... they must start with the need to refashion NASA, whose reputation for engineering excellence and dedication to safety is in tatters. (July 6, 2003)

ここでは制限用法は検索されず、非制限用法の which と whose が検索された。

表6 先行詞が「物(固有名詞)」の場合

that (主格)		which (主格)		whose		that (目的格)		which (目的格)	
制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	非制限	非制限
0	0	0	3	0	1	0	0	0	0

以上、物を先行詞とする前置詞を伴わない関係代名詞を6種類見てきた。これらの検索結果から、いずれの場合も、主格であれ目的格であれ制限用法は that, 非制限用法は which が用いられるということが言える。また所有格 whose は、制限用法でも非制限用法でもよく用いられている。先行詞の冠詞については、不定冠詞、定冠詞、無冠詞のどの場合でもたくさん用例があり、定冠詞でなければならないということはないと言える。

3. 2. 人を先行詞とする前置詞を伴わない関係代名詞

次に、関係代名詞が人を先行詞とし、前置詞を伴わない場合について、5つのカテゴリーに分けて見ていく。なお、「無冠詞+物(単数名詞)」というカテゴリーがあるのに「無冠詞+人(単数名詞)」というカテゴリーがないのは、普通名詞が無冠詞の単数形で用いられるのは抽象名詞や物質名詞などの「物」であるため、「無冠詞+人(単数名詞)」というのは用例がないからである。また that と who は、主格でも目的格でも用いられるとされているが、ここで扱ったデータには目的格の用例がなかった。したがって、ここでの that, who の用例数はすべて主格としてのものである。

まず、先行詞が不定冠詞を伴う場合を見ていく。

- (15) a. He was a community activist who campaigned against gun violence but was

licensed to carry a gun. (July 24, 2003)

- b. ... a very typical, and very poor, Filipino sharecropper, whose 12-year-old son is embarrassed that his family cannot afford to buy him a ballpoint pen or notebook for school. (July 20, 2003)

主格については制限用法, 非制限用法とも who のみ検索された。所有格 whose は非制限用法の用例があったが, 目的格は制限用法, 非制限用法とも 1 例もなかった。

表 7 先行詞が「不定冠詞+人」の場合

that		who		whose		whom	
制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限
0	0	17	2	0	2	0	0

第二に, 定冠詞を伴う場合を見ていく。

- (6) a. Tragically, the truck bombers who blew up the United Nations headquarters in Baghdad yesterday have already succeeded on the first score. (August 20, 2003)
- b. Candidates like this offer a particular challenge for the voters, who have to get past the screen persona (August 8, 2003)
- c. ... could decide to rig the catfish game to cut out the very Vietnamese farmers whose enterprise it had originally encouraged. (July 22, 2003)

結果は不定冠詞を伴う場合と同じで, 主格は制限用法, 非制限用法とも who のみ検索された。所有格 whose は制限用法が 1 例検索されたが, 目的格は 1 例もなかった。また用例の数も, 不定冠詞を伴う場合とほぼ同じであった。

表 8 先行詞が「定冠詞+人」の場合

that		who		whose		whom	
制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限
0	0	12	3	1	0	0	0

第三に, 所有格を伴う場合を見てみる。

- (7) ... and their sons, who are manning Port Authority switchboards, do their best to comfort them (August 30, 2003)

この例は少なく, 非制限用法の who が 1 例のみ検索された。

表9 先行詞が「所有格+人」の場合

that		who		whose		whom	
制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限
0	0	0	1	0	0	0	0

第四に、複数形で無冠詞の場合を見てみる。

- (18) a. President George W. Bush and his partners in the quartet that drew the road map — the United Nations, the European Union and Russia — must now not relent in their pressure on both sides. (July 2, 2003)
- b. Senator Hatch says he worries for citizens who cannot “legally reach for a firearm” when confronted by a gun-wielding predator. (August 2, 2003)
- c. By cutting generous checks to 25,000 American cotton farmers whose average net worth is nearly \$1 million, Washington underwrites massive overpopulation. (August 5, 2003)

ここでは、制限用法の主格 that が1例検索された。しかしその例は(18a)のような特殊なもので、先行詞を複数の人として見るができるものの、グループ・組織[物]として見ることもできるというものであった。ここでも基本的には、主格は who, 所有格は whose が使われ、目的格は使用されていなかった。また用例数は、不定冠詞や定冠詞を伴う場合よりも多かった。

表10 先行詞が「無冠詞+人(複数名詞)」の場合

that		who		whose		whom	
制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限
1	0	45	5	2	1	0	0

最後に、固有名詞の例を見てみる。

- (19) a. ... John Ensign, who is one of two veterinarians in the Senate. (July 13, 2003)
- b. ... the architect Daniel Libeskind, whose design for ground zero was chosen at the end of a very public process. (July 14, 2003)

結果は物が先行詞の場合と同じで、制限用法は1例も検索されなかった。また、ここでも that や whom の用例はなく、主格 who と所有格 whose のみが検索された。

表11 先行詞が「人（固有名詞）」の場合

that		who		whose		whom	
制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限	制限	非制限
0	0	0	27	0	2	0	0

以上の結果から言えることは、人が先行詞の場合は、制限用法であれ非制限用法であれ who が用いられるということである。また所有格 whose の用例は、制限用法、非制限用法とも、いくつか検索されたが、目的格は 1 例も検索されなかった。このことから、物を先行詞とした場合と違い、人を先行詞とした場合は、目的格は省略するのが普通だと言うことができる。冠詞については、物を先行詞とする場合と同じで、不定冠詞、定冠詞、無冠詞のどの場合もたくさん用例が検索されたことから、定冠詞でなければならないということはないと言える。

3. 3. その他の前置詞を伴わない関係代名詞

以上の例の他、前置詞を伴わない関係代名詞として、前文内容を受ける非制限用法の目的格 which が 1 例検索された。また、先行詞が「another + 物」という場合があり、制限用法の that が主格 1 例と目的格 1 例検索された。他には someone を先行詞とする制限用法の主格 who が 1 例、something を先行詞とする制限用法の主格 that が 1 例検索された。

また、一般に that が好まれるとされる「every + 物」が 1 例あり、(20a) のように直前に接続詞の that があるにもかかわらず⁶¹ 制限用法の主格 that が使われていた。もう一つ、that が好まれるとされる、先行詞に any が含まれるものが 3 例検索されたが、(20b) - (20d) に見られるように、「any + 人 (anyone)」が先行詞の場合は制限用法の who、「any + 物」が先行詞の場合は制限用法の that、非制限用法の which が使用されている。

- (20) a. ... it is not sensible to believe that every village that was inhabited in Charlemagne's day must be sustained. (August 31, 2003)
- b. It is stunning that anyone who lives and labors in Washington sees the city's gun problem as a Second Amendment campaign tableau (August 2, 2003)
- c. ... can also agree among themselves to cut off reactor fuel exports to any country that tries to build its own uranium enrichment (June 22, 2003)
- d. Most glaringly absent was any reform of Europe's subsidy-rich common agricultural policy, which gobbles up half the union's budget (June 23, 2003)

つまり、これらの場合でも、人が先行詞なら who、物が先行詞で制限用法であれば that、非制限

用法であれば which が用いられている。先行詞に any, every などが含まれるかどうかということよりも、先行詞が物か人か、制限用法か非制限用法か、ということの方が、使用される関係代名詞を決定するのである。

3. 4. 前置詞を伴う関係代名詞

次に、(21) のように関係代名詞が前置詞を伴う場合を見ていきたい。上記と同じ11のカテゴリーで見えていくが、which, whom 以外に用例がなかったため、その他の関係代名詞は表に載せていない。

- ㉔) a. This is a terrible proposal for which even the Justice Department has little enthusiasm. (August 13, 2003)
- b. ... it struck down Michigan's undergraduate admissions program, in which students were evaluated on a 150-point scale (June 24, 2003)
- c. But it is favored by the home builders and other interests to whom the White House feels indebted. (August 13, 2003)
- d. ... the nine justices — seven of whom were appointed by Republican presidents — would issue a landmark (June 29, 2003)

表12 関係代名詞が前置詞を伴う場合

	which		whom	
	制限	非制限	制限	非制限
不定冠詞+物	6	1		
定冠詞+物	3	2		
所有格+物	1	2		
無冠詞+物 (単数名詞)	0	0		
無冠詞+物 (複数名詞)	2	3		
物 (固有名詞)	0	0		
不定冠詞+人			0	0
定冠詞+人			1	1
所有格+人			0	0
無冠詞+人 (複数名詞)			0	0
人 (固有名詞)			0	0

これ以外に「another + 物」を先行詞とした制限用法の which が1例検索された。ちなみに、関係代名詞と共に共起する前置詞については、in which が13例、on which が3例、for which が2例、

of which が 1 例, to which が 1 例, without which が 1 例, of whom が 1 例, to whom が 1 例であった。表12からわかるように、前置詞を伴わなければ非制限用法でしか用いられなかった which は、前置詞を伴えば制限用法でもよく用いられている。また、前置詞がなければ全く用いられなかった whom も、制限用法、非制限用法とも用例が検索された。

3. 5. 調査結果からわかること

以上の検索結果から、*The New York Times* の Editorials/Op-Ed における関係代名詞の用法を、次のようにまとめることができる。

まず目的格の省略についてであるが、たしかに人を先行詞とした関係代名詞 whom, that, who は省略されるのが普通と言えるが、物が先行詞の場合はそうではない。目的格の that, which は比較的よく使用される。ただし、that は which とは異なり、前置詞を伴うことがなく、非制限用法として使われることもない。また、that は先行詞が人であっても物であっても使用できるということは事実であるが、実際には人が先行詞のときに使用されることはほとんどない。関係代名詞 that が好んで使われるのは、物を先行詞とする制限用法のときであり、人が先行詞であれば、たとえ先行詞に any などが含まれていようと who が使われる。一方、物を先行詞とする which は、前置詞を伴えば制限用法でも非制限用法でも使われるが、前置詞を伴わない場合は非制限用法に限って使用される。所有格 whose は、先行詞が物であっても人であっても、制限用法でも非制限用法でも、よく用いられる。固有名詞が先行詞の場合は、どの関係代名詞でも非制限用法で使用される。また、先行詞につけられる冠詞については、人であれ物であれ、不定冠詞、定冠詞、無冠詞のどれでもよく用いられる。

4. Harry Potter の英語

前節では2003年の *The New York Times* を対象として分析を行った。この新聞はアメリカの代表的な日刊紙であり、したがって、ここで使用される語法は正当な英語と理解できるが、イギリス英語には当てはまらないものもある。つまり、物を先行詞とする関係代名詞 which は、前置詞を伴わなければ制限用法では使用されないというのはアメリカ語法であって、イギリス英語はこの限りではないことを申し添えておかなければならない。

世界中でベストセラーとなった『ハリー・ポッターと賢者の石』には、*Harry Potter and the Philosopher's Stone* というイギリス版と *Harry Potter and the Sorcerer's Stone* というアメリカ版が

ある。もちろん、両者の内容は同じであるが、関係代名詞 *which* の用法に著しい違いが見られる。まず、(22)–(25)のように、イギリス版では制限用法で用いられているのにアメリカ版では非制限用法に直されている *which* が4例ある⁷⁾。

- (22) a. It was as Harry dodged another Bludger which went spinning dangerously past his head that it happened.
b. It was as Harry dodged another Bludger, which went spinning dangerously past his head, that it happened.
- (23) a. Harry did the best he could, trying to ignore the stabbing pains in his forehead which had been bothering him ever since his trip into the Forest.
b. Harry did the best he could, trying to ignore the stabbing pains in his forehead, which had been bothering him ever since his trip into the forest.
- (24) a. ‘It’s OK!’ he called up to the light the size of a postage stamp which was the open trapdoor. ‘It’s a soft landing, you can jump!’
b. “It’s okay!” he called up to the light the size of a postage stamp, which was the open trapdoor, “it’s a soft landing, you can jump!”
- (25) a. ‘This way,’ said Harry, pointing down a stone passageway which was the only way on.
b. “This way,” said Harry, pointing down a stone passageway, which was the only way forward.

さらに、(26)–(51)のように、イギリス版で使用されている制限用法の *which* が、アメリカ版では *that* に書き直されているケースが26例もある。同じ事柄を表現するのに、イギリス版とアメリカ版でこのような違いが見られるのは驚くべきことである。

- (26) a. He was wearing long robes, a purple cloak which swept the ground and high-heeled, buckled boots.
b. He was wearing long robes, a purple cloak that swept the ground, and high-heeled, buckled boots.
- (27) a. I have one myself above my left knee which is a perfect map of the London Underground.
b. I have one myself above my left knee that is a perfect map of the London Underground.

- (28) a . His Aunt Petunia was awake and it was her shrill voice which made the first noise of the day.
 b . His Aunt Petunia was awake and it was her shrill voice that made the first noise of the day.
- (29) a . The only thing Harry liked about his own appearance was a very thin scar on his forehead which was shaped like a bolt of lightning.
 b . The only thing Harry liked about his own appearance was a very thin scar on his forehead that was shaped like a bolt of lightning.
- (30) a and a bottle of some amber liquid which he took a swig from before starting to make tea.
 b and a bottle of some amber liquid that he took a swig from before starting to make tea.
- (31) a . With his tongue between his teeth he scribbled a note which Harry could read ...
 b . With his tongue between his teeth he scribbled a note that Harry could read ...
- (32) a . He had just thought of something which made him feel as though the happy balloon inside him had got a puncture.
 b . He had just thought of something that made him feel as though the happy balloon inside him had got a puncture.
- (33) a as they climbed a broken-down escalator which led up to a bustling road lined with shops.
 b as they climbed a broken-down escalator that led up to a bustling road lined with shops.
- (34) a an arch-way on to a cobbled street which twisted and turned out of sight.
 b an archway onto a cobbled street that twisted and turned out of sight.
- (35) a . Harry now carried a large cage which held a beautiful snowy owl ...
 b . Harry now carried a large cage that held a beautiful snowy owl ...
- (36) a except for a single spindly chair which Hagrid sat on to wait.
 b except for a single, spindly chair that Hagrid sat on to wait.
- (37) a he swallowed a lot of new questions which had just occurred to him ...
 b he swallowed a lot of new questions that had just occurred to him ...

- (38) a and the little boats carried them through a curtain of ivy which hid a wide opening in the cliff face.
b and the little boats carried them through a curtain of ivy that hid a wide opening in the cliff face.
- (39) a . Then something happened which made him jump about a foot in the air
b . Then something happened that made him jump about a foot in the air
- (40) a . Filch found them trying to force their way through a door which unluckily turned out to be the entrance
b . Filch found them trying to force their way through a door that unluckily turned out to be the entrance
- (41) a the Gryffindor common room which made them all groan.
b the Gryffindor common room that made them all groan.
- (42) a and told long, boastful stories which always seemed to end with him
b and told long, boastful stories that always seemed to end with him
- (43) a . Professor McGonagall pointed them into a classroom which was empty
b . Professor McGonagall pointed them into a classroom that was empty
- (44) a a monstrous dog, a dog which filled the whole space between ceiling and floor.
b a monstrous dog, a dog that filled the whole space between ceiling and floor.
- (45) a a bright blue fire which could be carried around in a jam jar.
b a bright blue fire that could be carried around in a jam jar.
- (46) a making violent swishing movements which almost unseated him.
b making violent swishing movements that almost unseated him.
- (47) a . Stepping carefully over the rope which separated these books from the rest of the library, he held up his lamp to read the titles.
b . Stepping carefully over the rope that separated these books from the rest of the library, he held up his lamp to read the titles.
- (48) a some anti-Dark Arts spell which Snape needs to break through
b some anti-Dark Arts spell that Snape needs to break through
- (49) a his eyes lingering on the scar which stood out, livid, on Harry's forehead.
b his eyes lingering on the scar that stood out, livid, on Harry's forehead.

- 50) a. ... leaving three empty squares which Harry, Ron and Hermione took.
 b. ... leaving three empty squares that Harry, Ron, and Hermione took.
- 51) a. ... the trouble is, humans do have a knack of choosing precisely those things which are worst for them.
 b. ... the trouble is, humans do have a knack of choosing precisely those things that are worst for them.

5. 結 語

本論では、関係代名詞について、日本の学校文法における説明と、実際の用法とを比較分析した。その結果、物を先行詞とする場合は、制限用法は that, 非制限用法は which が使われ、人を先行詞とする場合は制限用法, 非制限用法とも who が使われることがわかった。所有格 whose は、どちらの先行詞でもよく使用され、目的格は人を先行詞とする whom, that, who は省略されるが、物を先行詞とする that, which は比較的よく使われることが明らかになった。ただし関係代名詞が前置詞を伴う場合は事情が異なり、which は非制限用法だけでなく制限用法でもよく用いられ、目的格 whom も使用されることがわかった。また、先行詞の冠詞については、不定冠詞、定冠詞、無冠詞のどれでもよく使われることがわかった。

ただし、これらはアメリカ英語の特徴であり、特に関係代名詞 which の語法に関しては、イギリス英語との間に違いがある。このテーマについては、今後両方の英語のデータをもとに、さらに深く広く調査分析する必要がある。これについては、次回の課題としたい。

注

- 1) ここでの学校文法の説明は、安藤 (1987), 長谷川 (1994), 小野 (1990), 杉山 (1998), 高梨 (1970), 豊永 (2003), 綿貫 (2000), 安井 (1996) を総合してまとめたものである。
- 2) 主格の関係代名詞でも there is 構文では省略可能とされるが、これは口語に限られる。
 - i. There is somebody {who / that / -} comes to see you.
 - ii. There's no one {who / that / -} runs faster than Charles.
- 3) 安藤 (1987) は、which はかたい文語で that は口語と説明し、綿貫 (2000) は、物を先行詞とする制限用法の関係代名詞は、くだけた英語では which より that が好まれるとしている。一方、安井 (1996) は、先行詞が物の場合には主として that を用いるが、which を用いることもできる、としている。

- 4) 先行詞に形容詞の最上級, 序数, the only, the same, the very, all, any, every, noなどが含まれる場合については, 小野 (1990), 高梨 (1970) は, 口語では who, which が使われることも多いとしており, 安藤 (1987), 長谷川 (1994), 杉山 (1998) は, 人が先行詞なら that ではなく who が使われることも多いとしている。
- 5) (8a) は, 話し手が先週帽子を買ったということを聞き手が知らない場合に用いられ, (8b) は, 聞き手がそれを知っている場合や, 今その帽子が話題になっている場合などに用いられる。
- 6) 高梨 (1970) は, 近くに that があるのに that を使うと, that—that と口調が悪くなるので, そういう場合の関係代名詞は that 以外を使うのが良いとしている。
- 7) (2)–(5) は, (a) が Bloomsbury のイギリス版, (b) が Scholastic のアメリカ版からの引用である (下線は筆者)。

参考文献

- 安藤貞雄 (1987) 『基礎と完成 新英文法』 東京: 数研出版.
- 花本金吾他編 (2003) 『旺文社レクシス英和辞典』 東京: 旺文社.
- 長谷川潔他 (1994) 『フォーカス 力をつく高校英文法』 東京: 啓林館.
- 石田秀雄 (2002) 『わかりやすい英語冠詞講義』 東京: 大修館書店.
- 石川慎一郎 (2000) 「コミュニケーション型英語教育における語法指導」『静岡県立大学短期大学部研究紀要』 第13-1号, 31-44.
- Leech, G. (1989) *An A-Z of English Grammar and Usage*. London: Edward Arnold.
- 小野経男 (1990) 『チャート式シリーズ 新英文法』 東京: 数研出版.
- 坂井孝彦 (2003) 「制限的用法の関係詞と先行詞の定冠詞」日本実用英語学会第159回研究会口頭発表.
- 杉山忠一 (1998) 『英文法詳解』 東京: 学習研究社.
- 高梨健吉 (1970) 『総解英文法』 京都: 美誠社.
- 豊永彰 (2003) 『英文法ビフォー&アフター』 東京: 南雲堂.
- 綿貫陽他 (2000) 『ロイヤル英文法』 東京: 旺文社.
- 安井稔 (1996) 『英文法総覧』 東京: 開拓社.

引用文献

- The New York Times*.
- Rowling, J. K. (1997) *Harry Potter and the Philosopher's Stone*. London: Bloomsbury.
- Rowling, J. K. (1998) *Harry Potter and the Sorcerer's Stone*. New York: Scholastic.